

大阪工業大学大学院 ディプロマ・ポリシーと学位論文審査項目・基準との関連

大学院 工学研究科 化学・環境・生命工学専攻 応用化学コース

博士前期課程

《 DPを達成するために特に関連度が高い項目に○ 》

ディプロマ・ポリシー		学位論文審査項目						
		項目1)	項目2)	項目3)	項目4)	項目5)	項目6)	項目7)
研究科DP	(1) 人類が現在直面している持続不可能性をもたらす諸課題の解決に取り組み、専門職業人として社会の持続可能な発展を担うことができる。	○		○	○			
	(2) 学士課程教育で得た成果をさらに高め、専攻における専門性と隣接する知識を総合して課題解決に取り組むことができる。				○	○		
	(3) 研究活動を介して、課題内容を理解し解決策を導くことができ、倫理観をもって他者との協働による課題解決に取り組むことができ、説明することができる。					○		○
専攻DP	(A) 専攻が包含する幅広い技術的背景を理解し、それぞれの専門性を深めながら複眼的な視点から課題解決に取り組み、社会の持続可能な発展に貢献できる。	○		○	○	○		
	(B) 専門性に基づいた基本的実験および分析技術を身につけ、観察・解析することを通して結論を導き出すことができる。				○	○		
	(C) 研究の結果を的確に発信でき、他者との協働により課題解決にあたることができ、さらに倫理的に行動することができる。							○
コースDP	(I) 課題の中から化学に関わる諸点を抽出し、それを他分野からの視点を含めて多面的に分析することで合理的な解決策を見だし、社会の持続可能な発展に貢献することができる。	○		○	○	○		
	(II) 多様な化学現象を観察および処理できる実験技術を身につけ、化学物質やプロセス技術がもつ危険性や環境への負荷を判断し、的確に行動できるとともに、多くの人々に状況を正確に伝えることができる。				○	○		
	(III) 課題解決においては、特に環境・生命工学との融合的な視点を保ち、協働しながらグローバルに活動できる能力と意欲、倫理観を身につけ活動できる。							○

学位論文審査項目・基準

審査項目	審査基準(満たすべき水準)
項目1) 論文テーマの妥当性	研究目的が明確で学術的・社会的意義を有すること。
項目2) 研究方法の妥当性	目的達成のため、適切な研究方法を実践していること。
項目3) 独創性(新規性)	テーマの設定、研究方法、結論等において、未知の事象・事物の発見や新たな見解を示していること。
項目4) 有用性	得られた知見が関連する分野および社会に対して有用な情報となっていること。
項目5) 信頼性	既往の研究等が適切に評価され、それらを自己の観点から十分に分析していること。
項目6) 完成度	一貫した論理が展開され、学術論文としての体裁が整っていること。
項目7) 倫理性	研究が倫理的に管理されていること。